

C++Builder Unicode対応

C++BuilderのRAD Studio 2009 バージョン以降で、完全にUnicodeをサポートして内部の文字列の扱いが変更になっている。特に、それ以前のバージョン（私の場合はC++Builder 5のソースを動かそうとした場合に、色々と留意する点があるので備忘録を残す。

文字列の扱い

UnicodeString型が追加され、従来のString型、Char型、PChar型の定義が以下のように変更されている。（[参考1](#)資料参照）

型	意味	備考
String	UnicodeString型でtypedef	UTF-16文字列
Char	wchar_tでtypedef	UTF-16文字
PChar	wchar_t *でtypedef	

文字列及び文字の移行

従来のAnsiStringやchar型も引き続き使えるが、将来の事も考えて以下のようにソースを修正。

移行前	移行後	備考
AnsiString	String	あえてUnicodeStringにしない
char	Char	
char *	PChar	

- 尚、ソースファイルは全て UTF-8 のBOM付きに変換して保存しておく。

文字列定数及び文字定数の修正

文字列と文字定数の前には、以下のようにL文字を付加する。

```
String str = L"文字列";  
Char c = L'あ';
```

C標準関数の修正

fopenなどのC標準関数は、char型を要求しているのでコンパイルエラーとなる。以下のように、_wを付加した関数名に変更する。

```
fp = fopen(fname.c_str(), "rt");  
↓  
fp = _wfopen(fname.c_str(), L"rt");
```

- [fopen_w fopen](#) ヘルプページ

その他対応の関数名は「[マップ関数](#)」ヘルプページを参照し下記のように変更。

移行前	移行後	備考
fgetc	fgetwc	fgetc → fgetwc
sprintf	swprintf	sprintf → swprintf
toupper	towupper	toupper → _mbctoupper → towupper
tolower	tolower	

所感

最初は「かなり思い切った仕様変更だな」と戸惑ったが、ソース修正は必要だが上記要領で案外スムーズに動いた。

参考

1. Delphiにおける一般的なUnicodeへの移行テクニック 2. RAD Studio における Unicode 3. Delphi 2009
ではじめるUnicodeアプリケーション - 既存コード移行のポイント - 4. 旧バージョンからの移行 5.
C++Builder2009におけるStringの変更による既存コードの修正 6. C++Builderの文字列変換 7. Cannot
convert 'const char*' to 'WCHAR*' in argument passing 8. System.UnicodeString のメソッド 9. UTF-8
を使う

From:
<https://www.yokoweb.net/dokuwiki/> - 新石器Wiki

Permanent link:
https://www.yokoweb.net/dokuwiki/programing/cpp_builder/cpp_builder-unicode?rev=1580442243

Last update: 2020/01/31 12:44

